診療科からのメッセージ

消化器内科

我々消化器内科では、山形大学医学部第二内科の協力とご指導の下に、地域医療ゆえのすそ野の広い医療という事情の中でも消化器病の専門性を追求できるよう若い先生方の活躍の場を整えています。

メンバーは消化器病専門医３名（うち指導医２名）と大学病院から定期的な人事異動で研鑽している若手医師の計４名です。

日本消化器病学会認定指導施設 、日本消化器内視鏡学会指導施設と日本肝臓学会認定指導施設の施設基準を維持するためにも、 我々指導医自らも学会での症例報告や論文発表を積極的に行っております。そして経験した症例を積極的に学会発表と論文発表をめざす意欲ある先生方の研修が大事な医師人生の一里塚となれるよう臨床現場の環境も整えてお待ちしております。

初期研修期間は、どのような専門科を目指すにせよ医師としての生き方に大きな影響を及ぼす大切な期間です。 高い山には広いすそ野があり険しい道を経て頂点に至ります。志を高く一緒に高みを目指しましょう。

循環器内科

循環器内科の特徴は、循環器診療、総合内科診療及び透析診療を幅広く経験できることです。総合内科診療（総合内科専門医２名）だけでなく、透析医療も経験できます（最上地域唯一の透析導入施設、腎臓内科非常勤医師３名）。

最上地域唯一の心臓カテーテル検査施設（12 誘導心電図伝送あり）で、症例は当院へ集約されるため、多彩な症例を経験できます（日本循環器学会循環器専門医研修施設（専門医２名）、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設（専門医１名、認定医１名））。急変対応も指導します（日本循環器学会 ACLS ディレクター1 名）。

当院は心臓血管外科医が不在であり、高度医療施設への転院搬送も行っています。循環器内科常勤医は４名と少ない一方、夜間休日は完全当番制で、メリハリをもって研修できます。幅広く疾患を経験できることが当科研修のメリットと思います。初期総合内科診療、救急対応、手技等しっかり指導しますので、十分な経験を積んで、今後の専門の基となる総合力を身に着けて頂きたいと思います。

先生方の当科への研修をお待ちしています。

呼吸器内科

呼吸器内科では、日本呼吸器内科学会認定専門医を中心に３名の医師が診療にあたっています。

呼吸器内科外来では、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎をはじめとする一般診療から専門的な肺がん治療や間質性肺疾患まで幅広い症例を経験することができます。

また、救急外来では気胸や肺がん患者の急変などの急患対応を経験することができます。

血液内科

血液内科では、日本血液学会認定専門医１名が、白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫など、血液疾患の治療を行っています。

山形大学医学部附属病院等と連携して、地域の血液疾患に対応していますので、多様な症例を経験することができます。

腫瘍内科

腫瘍内科は１名体制で、2024 年４月より異動で新しく着任した医師が担当しています。一般内科の症例と腫瘍内科の症例を幅広く担当しております。

抗がん剤や各種検査の組み立て、考え方などや、患者さんの療養環境を支えていくことを始めとして、各種発表や研修など、ローテート下さる研修医の先生の興味関心に応じて、多くのことを学んでいただけるよう微力を尽くさせていただければと思います。

癌と向き合うことは死や人生と向き合うことに通ずることも多いですので、抗がん剤や遺伝子の複雑さも相まって、ハードルが高く感じられることもあるかと思いますが、研修医の先生の興味関心に応じて弾力的に指導対応できればと思いますので、短い時間でも気軽にローテートしていただけると嬉しいです。

小児科

小児科は常勤医３名で、 そのほかに山形大学から各分野の専門医が外来診療に来ており、 急性疾患から慢性疾患まで、ありふれた疾患から専門的な疾患まで幅広く診療しています。 予防接種や乳幼児健診も行っており、病気の予防に関わることができ、 子どもが発達していく過程をみることができます。

最上地域では分娩を扱う医療機関は当院だけです。様々な新生児疾患を経験するだけでなく正常新生児の管理も当院では経験できます。

研修医の皆さんには、異常所見を診察するだけでなく、正常所見の診察も多数経験する中で、 重症者を見逃さない能力を身につけていただけます。 私たちと一緒に診察し、 ディスカッションしながら診療方針を決め、 その結果よくなっていく子どもたちをみる体験ができます。ぜひ当院で研修をしてみませんか。

外科・乳腺外科

これから研修医となる皆さんにとって、医学部に入学した頃に憧れていた外科のイメージと、実際の現場の違いに驚いている方も多いのではないでしょうか。外科系の専門科に進みたいと考える研修医は多くても、実際に外科医を目指す研修医の数は減少しています。その原因の一つとして、労働環境や研修が「ブラック」であるという声が聞かれます。

この問題を解決するため、私たちの科では、研修がしやすい環境作りに全力で取り組んでいます。これまでにも多くの研修医が、当科の個性豊かな 6 名の外科医と共に、患者さんの診療を行ってきました。手術はもちろん、縫合、穿刺、エコー、術後管理など、医師として必要な基本的知識や技術を丁寧に指導しています。

私たちの科での研修を通じて、外科の魅力を再発見してみませんか。情熱と技術を持って、多くの患者さんに貢献できる未来を一緒に築きましょう。

整形外科

整形外科では、年間 600 人程度の新患患者、加えて救急部経由の急患を受け入れ、約 400 件の手術を行っています。地域柄高齢者の外傷が多く、手術、入院患者の多数を占めます。

歴史的に膝関節の手術が多く、人工関節、骨切り術、靭帯再建術などが行われ、他に肩関節鏡視下手術やスポーツ整形外科診療にも力を入れています。

地域救命救急センターの存在、また最上地区で唯一整形外科手術が行える病院でもあり、研修医の皆様には外傷の初期対応、骨折を中心とした外傷手術の基本から応用まで十分に経験、学んでいただける環境と考えます。

現在は常勤で肩関節、膝関節の専門医が在籍、また上肢（手関節、前腕、肘関節）、足関節・足、腫瘍、RA、股関節、リハビリテーションの専門医が非常勤として山形大学から来ており、幅広い分野での診療、研修が可能です。初期研修としてだけでなく、整形外科専門医を目指す専攻医としてみても有用な勤務地の一つと考えます。ぜひ、研修先候補として一考いただければと思います。

形成外科

当科は、東北大学形成外科からの派遣を基本とする 2 人体制(科長は日本形成外科学会領域指導医)です。最上地域の中核病院の役割として、傷の急患対応(主に手や顔、動物咬傷)、やけどの対応をする機会が多いです。外傷の他、体表の腫瘍と切除するとか、陥入爪や手の変性炎症性疾患の診療もよくやっています。

当院で初期研修をした先生方は、内科系志望・外科系志望にかかわらず形成外科をローテートするケースが多いです。その期間は 1 ヶ月であっても、傷の診察法や、処置・縫合の麻酔法を含めたノウハウや、投薬等の後療法を体験することにより、よく遭遇する小外傷への対応法の基本を習得でき、その後の急患診療のアドバンテージになるものと考えております。形成外科を進路の候補として考えている方は、それ以上の研修(たとえばマイクロサージャリーに参加するなど)ももちろん可能です。

脳神経外科

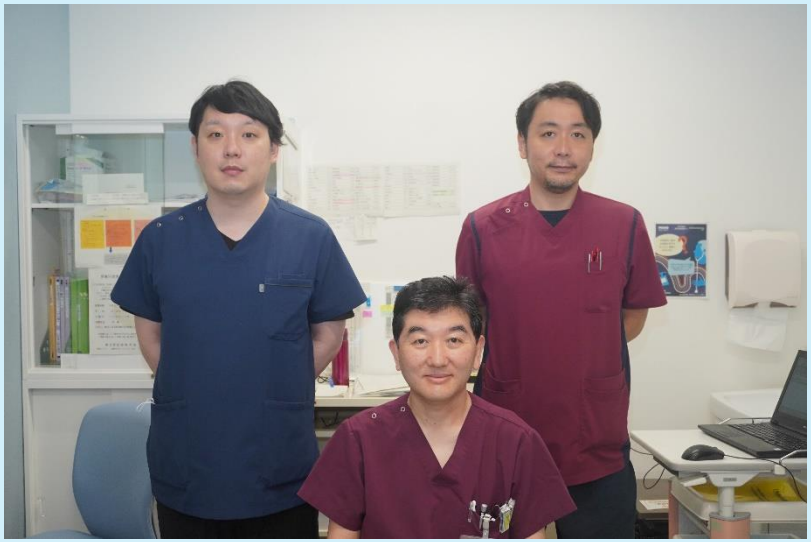
脳神経外科では、日本脳神経外科学会認定専門医を中心に２名の医師が診療にあたっています。

急性期脳血管障害、頭部外傷に対する迅速で適切な診察、検査、診断、治療を実施しており、脳腫瘍、頭蓋内出血、破裂脳動脈瘤、てんかん、パーキンソン病などの機能的疾患から外傷まで、幅広く、それぞれの術前術後管理、CT、MRI をはじめとする画像診断、手術および化学療法、放射線療法について経験することができます。

皮膚科

皮膚科ではアトピー性皮膚炎や帯状疱疹、褥瘡などの一般的な皮膚疾患の外来診療を行っています。受診される方の年齢層は幅広く、多彩な皮膚を診察しています。

泌尿器科



泌尿器科は 2022 年度から 1 名常勤医が増え、現在 3 名の常勤医と毎週木曜の外来を担当する非常勤医師 1 名で泌尿科診療全般を扱って運営しています。

前立腺癌の確定診断検査である「前立腺生検」は年間約 90 件、経尿道的膀胱悪性腫瘍手術は約 60 件、尿路結石手術は約 80 件実施しており、他にも主に良性疾患の手術を幅広く行っています。また進行した泌尿器癌に対しては「化学療法室」の延べ利用数が全科を通じて 2 番目と、化学療法・免疫チェックポイント阻害薬による治療を積極的に行っています。

常勤医が 1 名増員したことで地域の著しい高齢化により増加の一途である急患への対応が非常に円滑となっています。これは普段の診療に忙殺されることなく研修医の皆さんの「学び」に充分寄り添える体制となっていることを意味しています。当院で研修されるようお待ちしています。

産婦人科

産婦人科は３名の医師で診療にあたっております。当院は産婦人科の領域として、腫瘍、周産期、不妊、女性医学すべての分野において満遍なく診療を行っております。研修する上では、産婦人科としての基本を全般的に学ぶことができ、産婦人科としてだけでなく、一般的な女性の患者様に対しての診療の理解度を上げることもできるかと考えております。分娩については年間 300 件弱となっております。周辺に分娩を取り扱っている施設がないこともあり、様々な分娩を経験できる環境にあるかと思われます。

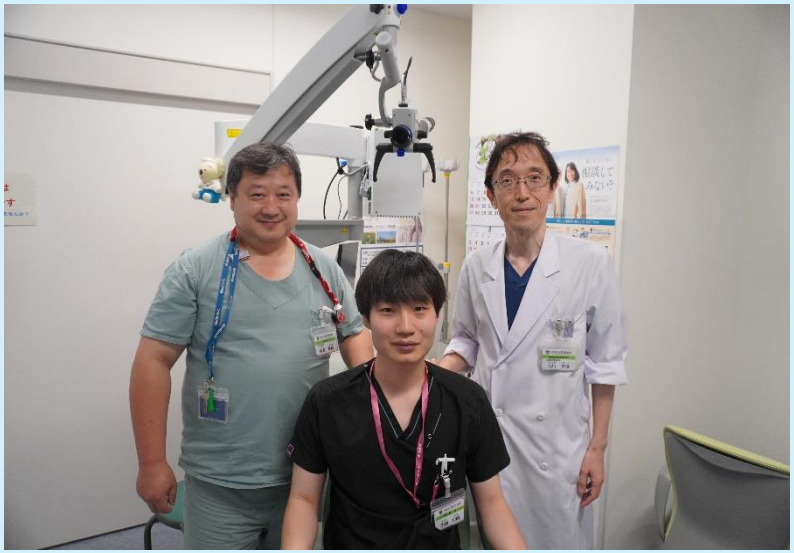
また、チーム医療を大事にして診療にあたっており、タスク管理、属人性の解消化といった働き方改革にも積極的に取り組んでおります。当科での研修では、産婦人科としての領域だけでなく、医師としての働き方、効率化などについても学ぶ機会を得られればと考えております。皆様と一緒に研修できるのを楽しみにしております。

眼科

眼科では、眼科医 2 名が診療に当たっています。眼科の外来では、白内障をはじめ、緑内障、糖尿病網膜症などの安定疾患など、いわゆる眼科一般の症例が多くあります。

また、眼外傷の診療も経験することができます。

耳鼻咽喉科



　耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医指導医２名が、外来では地域のクリニックと、マンパワーや特に専門性を要する疾患では山形大学と連携し、最上地域で唯一耳鼻咽喉科入院が可能な施設で地域医療を担っています。

　老若男女の癌を含めた幅広い疾患を対象とし、内視鏡下耳科手術や顔面神経麻痺にも力を入れています。

　最上地域に未来の日本の超高齢社会の縮図があります。

　高齢患者が急性期疾患の　治療後に元気に自宅退院を可能にするためには「食べる」が非常に重要です。

　特に言語聴覚士と連携して嚥下機能評価を多数行い「食べる」を支援中です。

　今後嚥下診療を学ぶことはどの科の医師になるにしても重要です。

　研修医は基本定時で業務終了ですので御安心ください。

　耳鼻咽喉科への興味が浅い方にも一般救急等で必要な知識や手技を身につけて頂きたいと考えています。深い興味を抱く方には興味のあることから専門医や指導医取得に必要な学会発表や論文作成まで支援します。

　当科で一か月学生実習を行ってくれた先生が今年、新庄病院に研修医として来てくれました。一生懸指導した甲斐があったと喜んでおります。研修医の先生方を責任もって熱く指導いたしますので、皆様のお越しをお待ちしております。

放射線科

放射線科は画像診断と IVR に関して常勤医 2 名で診療に当たっており、放射線治療は大学の専門医が週 2 回の外来診療をしています。常勤医は 2 名とも日本医学放射線学会の専門医で、放射線科専門医修練機関の認定を受けています。

最上地域の拠点病院である当院は、腫瘍、外傷、救急などの多様な疾患に対して最新の撮像機器による画像を整った読影システムを用いて診療する事ができ、画像診断医を目指す方が効率的に十分な研修を積むことができる環境です。

IVR は肝臓癌や胃静脈瘤の治療といった血管撮影、CT 下のドレナージや生検と様々な手技に対応しています。

研修医の読影結果は全例を専門医が目を通し指導しますので、1 例 1 例を確実に学び読影力が日々上がっていくことを実感されると思います。また、画像診断以外を目指す研修医の方でも、当科を回られると救急や志望科で役立つ画像診断の基本を身につけるよい機会と考えています。

麻酔科

研修医の皆さん、こんにちは。

当院では常勤医 1 名と複数名の非常勤医師で麻酔管理を行っています。手術室は 6 部屋あり、年間で 2,000 件程度の手術のうち麻酔科管理症例数は 600 件程度です。常勤医師は指導医で山形大学と山形県立中央病院の麻酔科専門研修プログラムに参加しています。

当院麻酔科の特徴は常勤医 1 名体制の対応として、看護師や医療クラークの積極的な活用です。周術期管理チーム認定看護師と麻酔科領域特定行為研修修了看護師が中心となり、麻酔を含む周術期管理にともに取り組んでいます。また、医療クラークも術前回診等で大きな役割を担っており、研修医の皆さんもスムーズに研修に取りかかることが可能です。

麻酔科ローテートでは、1 期間中に研修医は 1 名のため麻酔中の全身管理はもちろんのこと、気道確保や動脈ライン確保等の手技は存分に経験できますので、研修終了後は大きな自信がつくと思います。

救急科

救急科では最上地域全域と北村山地域の一部を対象として、一次救急から三次救急まで全ての初期診療を担当しています。

二次医療圏唯一の中核病院として地域救命救急センターを併設しており、2024 年度は年間約 12,000 人の救急外来受診患者を受け入れ、そのうち 2,600 人以上が救急搬送患者です。軽症から重症まであらゆる病態の患者が数多く受診するため、緊急性や重症度に応じて優先順位を付けながら診療を行っています。

苦痛で助けを求める人々や負傷している人々に手をさしのべるのが救急医療の原点です。

そして救急医療は地域ごとに役割が異なり、患者のみならず社会まで「診る」ことが求められます。当院での研修を通して、他職種と連携しながら全人的かつ包括的な急性期医療を自ら考えて実践できる医師を育成します。

ワークライフバランスも重視しており、プライベートを充実させながら、ともに学べる日を心待ちにしています。